

て開催することを表明したが、競馬事業を取り巻く環境は依然として厳しい。①経費節減と振興策を含む中長期的な事業運営は。②地方競馬共同トータリゼータシステムへ参画するが、メリックトやランニングコストは。

答

①福山市営競馬検討委員会答申は、できるだけ速やかに廃止すべきとした上で、実質単年度収支の確保を条件に事業継続することも考えられるとしており、この答申を最大限尊重すべきものと考ええる。②一括管理による運用面のメリットがあり、共同開発により開発経費を節減できる。ランニングコストは、年間1800万円程度節減できると試算している。

神辺町のまちづくりは

問

①川南土地区画整理事業の保留地処分に係る賦課金について、本市の見解は。②神辺支所整備予定地が神辺文化会館北側に決定したが、公共交通によるアクセスが整備されていない。公共交通体系を整備する考えは。

答

①本事業は公共団体である

本市が施行する事業であり、法的に地権者に賦課金を課すものではない。②支所整備後のアクセスは県道栗根神辺線を有効に利用できるように、路線バスの運行ルートの調査研究を含め、周辺一帯の交通事情等を考慮し、検討する。

◆関連質問

川南土地区画整理審議会委員の選挙と今後の事業について (水曜日)
神辺町川南のまちづくりについて (日本共産党)

県立福山北特別支援学校の移転問題について

問

移転先となる、閉校した県立自彊高校の改修工事が進められている。来年1月に移転の予定と聞けが、学校周辺地域の市道は狭く、大型バスの通行で交通渋滞や事故等が予測され、改善が急がれる。移転に関する情報を共有し、行政が連携して諸課題の解消に取り組む考えは。

答

県教育委員会から、移転計画や改修工事の進捗状況等の説明と、バス通学ルートに係る道路改

良等について協力要請があった。今後、県教育委員会や関係機関と連携し、地域住民や児童生徒の安全確保に向け道路改良等に努める。

水曜日



小林 茂裕 議員

行財政改革の成果と職員数の推移は

問

①行財政改革の成果は。②普通会計に占める人件費の比率は大幅に低下し、大きな成果を挙げているが、24年度の職員数の増減は。

答

①16年度の市長就任から22年度までに、定員管理、給与の適正化などにより、総額で120億3300万円余の節減を図った。②市民病院の増築、増床に対応するため、医療・看護体制の充実を図っており、75人程度の定員増となる見込みで、その他にも多くの増要因が見込まれるが、上下水道の組織統合をはじめ、行政運営体制や事務事業等の見直しを行うな

ど、市全体の職員数を40人の定数増に抑える考えである。今後とも市民サービスを低下させないことを基本に、定員適正化計画に基づき適正な定員管理に努める。

◆関連質問

行財政改革の財政面での成果について (新政クラブ)

各合併建設計画の進捗状況は

問

内海町と新市町との合併から9年、沼隈町との合併から7年、神辺町との合併から6年が経過したが、それぞれの合併建設計画の進捗状況は。

答

合併建設計画の見直し後の事業費総額に対する24年度予算案までの予算化率は、内海町92・8%、新市町92・6%、沼隈町79・6%、神辺町42・7%で、4町合わせて74・2%である。事業数に対する完了した事業と実施中の事業に新たに24年度予算化した事業を加えた事業化率は、4町合わせて97・1%である。今後も計画期間内で実施していくことを基本に取り組み。

※地方競馬共同トータリゼータシステム：地方競馬全主催者が参画し、共同センターを設置して、勝馬投票券の票数集計や払戻金の計算などを一元的に管理・運用するもので、全場の相互払い戻しができる。